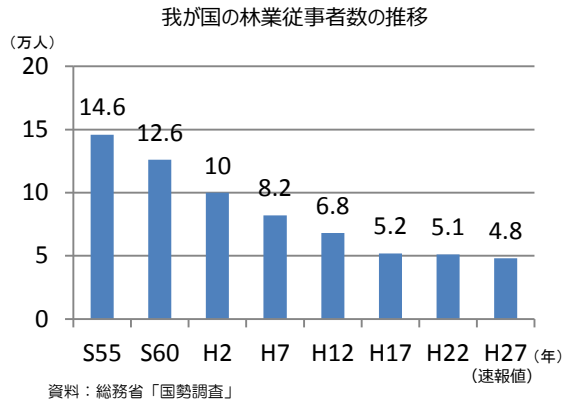


◆ 林業・木材産業を支える人材育成支援について ◆

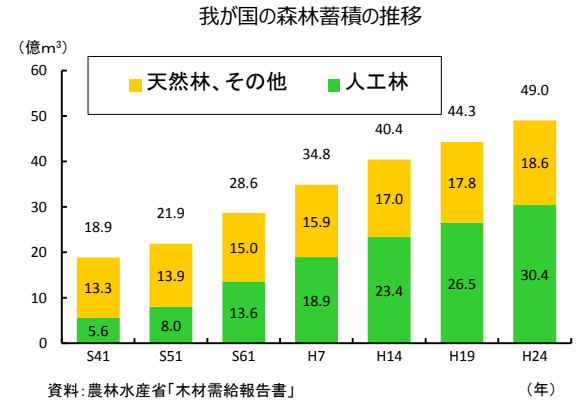
〈林業労働力の動向〉

- 林業従事者の数は長期的に減少傾向で推移しており、平成22年には5万1千人（平成27年の速報値では4万8千人）
- 「緑の雇用」事業や、「緑の青年就業準備給付事業」により林業就業者数の減少に歯止めがかかりつつある



〈森林資源の充実〉

- 戦後植林された人工林は成熟期を迎え、蓄積量はこの半世紀で約2.6倍となり、本格的な木材利用を図る時期を迎えている
- 木造率が低い低層非住宅の木造化やCLTなど新たな木材製品の開発・普及による需要の創出が必要



- 林業大学校等の就業前研修の教育・研修機関の設置の動きが活発化
- H24年度に京都府が西日本初の林業大学校を創設
- 現在17府県で林業大学校等を設置
- 高知県は、H27年に「基礎課程」と「短期課程」を開講
- さらに、H30年4月に「専攻課程」を開講し、定員が20名から50名に大幅増加

森林資源の成熟

原木の
安定供給
体制の構築

新たな
国産材需要
の創出

- 林業・木材産業の成長産業化の鍵となるCLTなどの新たな建築部材を活用した木材需要の創出が必要
- 高知県ではH30年4月に開講する「専攻課程」に木造設計コースを新設、新たな木材需要の創出に向けた取り組みを推進するために、木造建築を提案できる人材を育成

高まる就業
前の
人材養成への
対応

〈林業・木材産業を支える人材育成支援の充実〉

- 林業大学校等の増加に対応する「緑の青年就業準備給付金事業」の財源確保
- CLT等の新たな建築部材を活用した木材需要の創出に向けて、木造建築を提案できる人材の育成確保のための林業の担い手育成と同様の給付金制度等の創設

木造建築の
提案が
できる人材養成が
急務

林業・木材産業の成長産業化
中山間地域の活性化